様式第２（第12条関係）　　　　　　　　　　　　　　　　　　**29. WFEO**

加入国際学術団体に関する調査票

１　国際学術団体活動状況（内規第 11 条　活動報告）

団体名	和	世界工学団体連盟
	英	World Federation of Engineering Organizations (略称 WFEO)
	団体 HP（URL）	http://www.wfeo.org/ （日本学術会議が加盟していることの記載　有（○）・　無　）
国際学術団体における最近のトピックについて（学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等）		技術者の世界的な交流と国際連携の推進。国連主導の持続可能な開発目標（SDGs）－2030 アジェンダが採択され、その SDGs を達成する為の活動。発展途上国への技術支援の活動など。
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について		SDGs 達成に向けた技術教育・人材育成、防災・環境技術、イノベーション・情報技術、エネルギーなどの専門分野において、持続可能性をテーマにした研究（WFEO は、上記の専門分野をもつ複数の常設委員会を設置している）。
日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて		日本人役員としては、WFEO 副会長兼常設災害リスク管理委員会（CDRM）の委員長（2009 年～2013 年夏：石井弓夫；2013 年秋～現在：小松利光）を務めてきた。特に CDRM の年間活動を通して、災害リスク管理の理念や実践を世界に発信してきた。
加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への効果やメリットについて		WFEO 常設委員会の CDRM の活動では、特に例年開催される日本国内の学術団体等と共同開催されるジョイント国際シンポジウムは、防災・減災の啓蒙活動に大きく貢献してきた。加えて、WFEO の関連組織である世界工学会議（WEC）は、2015 年京都で日本学術会議との共催で 3 日間開催され、総参加者 2,000 名（外国人 400 名含む）の工学分野の研究発表会や人的交流会を成功させた。国内学会、及び技術者への大きなインパクトがあった。会費に対する費用対効果は、特に災害分野で情報を世界に先んじて発信的できるメリットをもっている。
その他（若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など）		WFEO は若手・女性技術者に対する人材育成・人的交流委員会を常設している。その委員会では、若手・女性技術者の育成に力を注いでいる。また、また WFEO は倫理委員会も常設しており、特にアフリカ諸国を中心に、技術者倫理の改善に関するワークショップを行い、加えて世界的な技術者倫理規約の標準化を目指している。

２　今後の予定について（内規第 11 条　活動報告）

総会、理事会の日本開催の予定について（招致等の予定も含め）	世界工学会議（WECC2015）の開催と共に 2015 年秋に京都で開催された。
日本人の役員立候補等の予定について	2017 年に委員会委員長一カ国 8 年という規約のため災害リスク管理委員会委員長が日本以外に交代になり副会長ポストがなくなるため、2019 年の総会において拡大理事会メンバーで

	ある加盟国代表(National Member)に日本から立候補を予定している。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて	WFEO の常設委員会である CDRM では、災害に関するシンポジウムの開催やユネスコなどの国際機関との国際連携を推進するプロジェクトを立ち上げている。

３　国際学術団体会議開催状況（内規第 11 条　活動報告）

総会・理事会・各種委員会等の状況（過去5年間及び今後予定されているもの）	総会開催状況	2019 年（開催地：メルボルン）、2017 年（開催地：ローマ）、2015 年（開催地：京都）、　2013 年（開催地：シンガポール）、2011 年（開催地：ジュネーブ） （総会は 2 年に 1 回開催）
	理事会・役員会等開催状況	2017 年（開催地：パリ、ローマ）、2016 年（開催地：パリ、リマ）、2015 年（開催地：パリ、京都）、　2014 年（開催地：パリ、パリ）、2013 年（開催地：パリ、シンガポール）、2012 年（開催地：パリ、スロベニア）、 2011 年（開催地：パリ、ジュネーブ） （年 2 回開催される。本部のあるパリでは毎年春開催される）
	各種委員会開催状況	2017 年（開催地：ローマ）、　2016 年（開催地：リマ）、 2015 年（開催地：京都）、　2014 年（開催地：パリ）、 2013 年（開催地：シンガポール）、2012 年（開催地：スロベニア）、 2011 年（開催地：スイス） （常設専門委員会は、原則年 1 回開催される）
	研究集会・会議等開催状況	同上
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定		2015 年　総会・理事会会議（京都）　多数（代表派遣：小松利光） 2015 年春　拡大理事会会議（パリ）　5 人（代表派遣：小松利光） 2014 年　理事会会議（パリ）　6 人（代表派遣：小松利光） 2014 年春　拡大理事会会議（パリ）　6 人（代表派遣：小松利光） 2013 年　総会・理事会会議（シンガポール）　10 人（代表派遣：石井弓夫） 2012 年　総会・理事会会議（ジュネーブ）10 人（代表派遣：石井弓夫） 2011 年　総会・理事会会議（ジュネーブ）27 人（代表派遣：石井弓夫）

国際学術団体における日本人の役員等への就任状況（過去５年）	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
	副会長・専門委員長	2013 秋～現在	小松利光	(23 期) 会員（○）・連携
	副会長・専門委員長	2008 年～2013 年秋	石井弓夫	(　期) 会員・連携（○）
		～		(　期) 会員・連携

出版物	１　定期的（１年数回）　主な出版物名：Ｅニュースレター 　　　　　（２年１回）　各専門委員会活動報告書 ２　不定期（１年複数回）主な出版物名；各専門委員会の報告書・ガイドラインなど
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又はURLを記載 （News: http://www.wfeo.org/kc_newsroom/、　Report http://www.wfeo.org/ “From the Executive Director”の項目）	

4　国際学術団体に関する基礎的事項（内規第３条、４条、５条）

<table>
<tr><td rowspan="3">国内委員会（内規４条第３号）</td><td>委員会名</td><td colspan="2">WFEO 分科会</td></tr>
<tr><td>委員長名</td><td colspan="2">小松利光（九州大学名誉教授）</td></tr>
<tr><td>当期の活動状況</td><td colspan="2">（開催日時　主な審議事項等）
2015 年 4 月 27 日
2015 年 10 月 22 日（2015 春パリ拡大理事会会合の報告、レジリエンス関連国際会議 I3R2 の共同セッション開催の報告など）</td></tr>
<tr><td rowspan="6">内規第３（国際学術団体の要件関係）</td><td colspan="3">国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である
（１．）該当する　　２．該当しない
※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載（http:// www.wfeo.org/about/）</td></tr>
<tr><td colspan="3">各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている（主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か）

（１．）該当する　　２．該当しない
※根拠となる資料の添付又は URL を記載（http://www.wfeo.org/governance/　「Constitution」）</td></tr>
<tr><td colspan="3">下記の事項（ア～エ）のいずれか一つに該当するか（該当するものに○印）

ア 個々の学術の専門分野における統一的かつ世界的な組織を有するもの

イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一的かつ世界的な組織を有するもの

（ウ） 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの

エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</td></tr>
<tr><td colspan="3">10 ヵ国を超える各国代表会員が加入している
（１．）該当する　　２．該当しない</td></tr>
<tr><td rowspan="2" colspan="2">加入国数及び主要な各国代表会員を10 記載</td><td>（約 90 ヶ国）</td></tr>
<tr><td>・各国代表会員名／国名
国家メンバー代表者：José Tadeu Da Silva (Brazil)、 Vilas Mujumdar (USA)、 Ruomei Li(China)、 Ashok Basa (India)、 Haro Bedelian (UK)、Khaled Chehab (Lebanon)、Nicola Monda (Italy)、Tomas Sancho (Spain)、Marlene Kanga (Australia)、 Marwan Abdelhamid (Palestine)。(www.wfeo.org/nationals/)</td></tr>
</table>